

「計画の改定に係る基本的な考え方」に対する意見について

平成 30 年度第 1 回審議会（平成 30 年 5 月 31 日開催）においてご意見をいただいた「計画の改定に係る基本的な考え方」については、平成 30 年第 2 回神奈川県議会定例会（産業労働常任委員会及び経済・産業振興特別委員会）においても、次のご意見をいただきました。

これらのご意見を踏まえて、施策体系のたたき台を「資料 1 - 3」として整理しましたので、本日の審議会では、これらについてのご意見も賜りますよう、お願い申し上げます。

1 基本理念（目指す姿）について

- 基本理念の「元気」とはどういうことなのか、計画の中に明確に示しておくべき。

（対応案）

- ・ 改定計画の中に次のような表現を盛り込んで「元気」という状態を示したい。
 - ① ものづくりやサービスの提供などを通じて、地域住民の生活と雇用を支え、地域経済の活性化に大きく貢献している。
 - ② 地域社会の一員として、コミュニティの持続や賑わいの創出により、県民生活の向上に重要な役割を果たしている。

2 数値目標（開業率）について

- 開業率を数値目標にしているにも関わらず、「開業」という言葉が大柱や中柱の中に一切出てこないため、創業と開業の違いがよく分からない。

（対応案）

- ・ 改定計画の中にコラム欄を設け、「創業」「開業」「起業」「設立」といった言葉の違いを丁寧に説明する。

3 数値目標（黒字企業の割合）について

- 黒字企業の割合については、これまでの実績の推移を見ても、2020 年に 50% を達成するというのは無茶ではないか。もっと現実的な目標設定とすべきではないか。

（対応案）

- ・ 現行計画で黒字企業の割合を数値目標として設定した際に参考とした国の「日本再興戦略」で掲げている目標（2020 年までに黒字中小企業・小規模事業者を 70 万社から 140 万社に増やす）をパーセントで換算すると、ほぼ 50% を目指している。
- ・ これまでの実績の推移を見ると厳しい状況ではあり、高い目標であることは

意識しているが、事業承継、人手不足、販路拡大、生産性向上等の経営課題の解決に向けて、企業誘致の促進や企業経営の未病改善などの取組を着実に推進していくことにより、目標達成を目指していきたい。

4 数値目標と施策との関連性について

- 計画の数値目標の置き方と解決すべき課題との間に乖離がないか。目標が達成できていれば、中小企業・小規模企業対策が上手くいっていると思われてしまう。
- 一つひとつの施策を実施し、何に取り組んだかということ、それによって中小企業・小規模企業にどのような影響があったのか、どう変わったのか、状況が良くなっているのかどうかをチェックできる指標が必要ではないか。
- 黒字企業の割合や開業率を目標に掲げているが、廃業率というのも、実際、どれ位の企業が廃業しているのかを表すものとして、マイナスの指標かもしれないが、廃業する方々が減らないと、それから、従業員数を減らさないということであれば、こういったものも参考的な指標として付け加えることもいいのではないか。

(対応案)

- ・ 現行計画では大柱に掲げていた「取組目標」を、中柱に「KPI（業績評価指標）」を設けて移行するとともに、大柱ごとに施策目標を設定し、数値目標（目指す姿）と中柱のKPI（県の施策の業績評価）をつなぐことで、県の施策の効果と数値目標との関連性がより見えるようにする。